



# 五稜会病院における 発達障害診断の工夫

# 「GMC・ASD/ADHD診断パック」

- 創
- 症例提示(個人情報の取扱いに注意し、患者の同意を得ています)
- 如何に診断まで効率良く出来るか
- 診断を早くすることによって、治療方針が早期に立てやすくなる
- 診断後の治療、心理教育について
- ●まとめ

# 症例8 20代男性、妻同伴、産業医の紹介 (ADHD症例・従来の診療)

【主訴】ADHDと思う。仕事や家庭でミス、物忘れが多い。妻:注意がむかない 【生育歴】

小学では、授業中は話を聞いておらず、提出物は遅れるか直前にやる 会話の情報量が多いと途中からついていけない 複数人での会話には、興味のない話題だと輪に入れない 中学校以降は時間ギリギリまで準備ができない。予定自体を忘れてしまう 【現病歴】

高卒後、製造業務に従事。先輩には物忘れの多さを指摘された

- X-2年、結婚。妻からの頼まれ事も忘れてしまい自分を責める 作業の確認事項が多々あるが、確認漏れやミスが多い。
- X-1年、精神科受診、うつ病と診断。11月に高ストレス者と判定、産業医面談
- X年1月、ADHD傾向が疑われて、当院を紹介されて初診。

医師診察、ADHD疑い、心理検査予約、2ヶ月後検査、診断確定、薬物療法

心理検査まで2か月待ち、その間通院なし。ADHDの診断、治療開始までとんでもなく長い

## 発達障害に関する診療の流れ(従来)

約

初診

1ヶ月

2ヶ月

3~4ヶ月

電話による 受診予約

予診(アナム) 聴取

診察 検査指示

検査予約

診察

待機 2ヶ月

診察

検査実施

結果整理

診察 診断告知 治療開始

担当

心理師

医師

■本人への心理検査 (発達障害検査、知能検査など)

▋養育者への生育歴聴取

結果説明



### 心理検査に関する課題

課題1

## 待機数の増加

平成29年11月時点で検査待機数が41件、検査待機時間が最長 3か月の状況であり、初診から診断までに数か月!!

課題 2

## 検査実施の必要性とニーズ

本人の二ーズが曖昧なケースや、実施までに期間が空くことで予約を 忘れて来院しないケースなど、検査の必要性と本人の二ーズが 一致しないという実情があった

## 発達障害アナムシステムの開発 平成30年

### 開発の目的

# 「GMC・ASD/ADHD診断パック.

- ■心理検査待機時間の短縮、診断や治療開始に至る過程の効率化 を図り、患者への負担を軽減する。
- ■患者本人のニーズや緊急度に応じて心理検査を実施する。

### 開発の方法

- ◆困りごとや発達特性の詳細な情報聴取、簡易心理検査を 初診時に実施する 「GMC・ASD/ADHD診断パック」を開発
- ◆対象: ASDあるいはADHDの可能性のある新規患者

### 「GMC・ASD/ADHD診断パック」

### 発達アナムの概要

①電話による簡易聴取実施

- ✓困りごとの確認(仕事や生活への支障、二次障害の有無など)
- ✓精神科既往。幼少期、児童期の様子
- ✓ASD・ADHDに関する特徴の確認
- ②困りごとの聴取
  - ✓本人の困りごとや発達的特徴の聴取
  - ✓養育者同伴の場合は養育者に対して生育歴や現在の様子について聴取
- ③簡易心理検査
  - ∨自記式検査の実施
  - ✓養育者や家族による他者評価
- ④検査結果と特徴について主治医と共有
- ⑤主治医による診断・治療方針の決定

①~④までを公認心理師が実施

6

※最短で初診当日に診断 必要な場合は精査を実施

## 当院で実施される心理検査

### ASD

#### □AQ-J(児童用、成人用)

5つの領域(社会的スキル、注意の切り替え、細部への関心、コミュニケーション、想像力)から特徴を把握

#### □PARS-TR (短縮版)

養育者に対する半構造化面接を実施し, 幼児期および現在の行動特徴を把握

### **ADHD**

#### 

診断基準に基づき、18項目から構成される自記式症状チェックリスト

#### 

不注意症状,多動性 - 衝動性症状に関する 重症度を評価

#### **□CAARS**

診断基準に基づき,本人と観察者(家族・同僚や上司など)による評価を行う

#### □Conners3 日本語版

6~18歳未満の養育者を対象とし、ADHDの特徴に加え、学習や対人関係による生活の支障度、問題行為、気分症状について評価

### その他 (知能検査)

#### □WISC-IV

16歳11か月未満対象

#### □WAIS-Ⅲ

16歳0ヶ月以上対象

※必要があれば実施。

本人の得意・不得意の差から生じる生活の支障を把握

### 「GMC・ASD/ADHD診断パック」

## 症例9 20代男性、母同伴

心理士からの報告

### 【生育歴】

1歳で初歩、言葉は遅かった。気に入らないと頭を床に打ち付けた

3歳から幼稚園通園。我慢できない、すぐ泣く。わがままで、頑固

就学以降、宿題や提出物など、存在を忘れたり、提出期限を守れない、片付けも苦手

注意されても何度も同じことを繰り返す。授業に集中できず、一度できて理解しても、次に間

違ってしまうことやケアレスミスが多かった。絵を描くことプラモデルなど工作は得意、好きなことに

は集中できる。待ち合わせや約束を覚えておくことや、間に合うと考えても時間に遅れてしまう

### 【現病歴】

X-1年3月 専門学校卒業、アルバイトを転々。制服を忘れたりした 仕事の覚えが遅く、ケアレスミスが目立ち、同じことを何度も間違う。メモを取ることも忘れる X年11月 ADHDを疑い、メンタルクリニック初診。

X年12月Y日 当院を紹介され、初診(発達アナム枠)

心理師による生育歴聴取⇒心理検査⇒医師診察⇒ADHD診断確定⇒治療開始

#### 中島先生

児童期より、忘れっぽさ、不注意な ミス、物事を順序だて整理することの 苦手さが家庭及び学校で観察されて います。

現在の状態としても、仕事に必要なものを忘れたり、覚えが遅く、何度も同じミスを繰り返してしまうなど、不注意の特徴による生活の支障が強いようです。

自己評価では、落ち着かなさや衝動的な行動など、多動性-衝動性の 自覚も高いようです。

ASDに関しては、自覚は高くなく、幼児期の様子の聴取(PARS-TR短縮版での評価)からも、ASDは示唆されませんでした。

初診時にADHD診断確定、治療開始。次回受診時は治療効果判定が可能

## 「GMC・ASD/ADHD診断パック」

## 発達障害の診療経過の変化

約

診

1ヶ月

状況に

応じて 検査追加 1.5~2ヶ月

結果説明

電話での 概要聴取

公認 心理師 発達アナム

問診 (生育歴や 主訴の聴取)



簡易心理 検査

医師

診察 結果説明 診断告知 治療開始



診察 診断告知 治療開始



待機時間の短縮、最短で初診当日の診断と治療開始が可能 双方にとって負担が軽減。分析時点(令和2年11月)における待機数は0件



# まとめ

- 「GMC・ASD/ADHD診断パック」 の開発により
  - ■効率化を図ることで、不必要な検査バッテリーを組む必要が無くなった
  - 結果処理に要する時間が短縮され、心理検査待機数の解消につながった
  - ■診断や特性把握に要する時間の短縮は、薬物治療や支援の早期開始が可能
- ■単身受診の場合
  - ■生育歴聴取が十分に実施できない場合には過剰あるいは過小診断のリスクを 考慮する必要がある
- 五稜会病院では、薬物療法以外にも、患者の特性理解や生活支援、当事者同士によるコミュニケーションを促す取り組みとして、外来集団療法プログラムを実施